

副病院長としてのご挨拶 婦人科 八重樫伸生



はじめに

副病院長という重責が心の準備もないままに突然回ってきました。そこで担当することになります大学病院の研究・教育・医療安全について、日ごろ考えていることを書くことでご挨拶にします。

1) 大学病院と研究

大学病院は市中病院と何が違うのか? 大学病院は何をする所か?

一言でいえば「大学病院とは医学系の基礎研究成果を臨床に結びつける場を提供する所」ではないでしょうか。そういった大学病院の定義から考えますと、研究面での最大の懸案はおそらく未来医工学治療開発センターの発展にあると思われまます。同センターは現在のところ全学組織として存在していますが、運営の中心が大学病院・医学系研究科・歯学研究科であることは明白です。さらに同センターと深く関連しながら今後発展していくべき組織として医学系研究科の創生応用医学研究センターがあります。横断的プロジェクトを発信させる拠点、基礎と臨床を繋げる拠点として、今春、大きく組織改編が行われました。またJSTの地域産学官共同研究拠点整備事業として東北先進医療研究開発連携拠点(TAMRIC)が走り出します。これにより東北大学が医療・創薬の関連企業の新たな集積地となることを目指した組織が星陵地区にできます。さらに既存の組織としては、大学病院内にある治験センターが活発に活動しています。これらの組織が有機的かつ連続的につながる組織の構築が最大のポイントと考えます。

2) 大学病院と教育

大学病院は、医師・歯科医師・看護師・薬剤師・助産師・臨床検査技師・放射線技師・臨床工学士・臨床心理士・臨床試験コーディネータなど、さまざまな職種の人材育成の場を提供しています。その中でも特に卒後臨床研修センターは東北大学病院に若手医師を呼び込む玄関口として大きな役割を果たします。そのセンター長を拝命する責任は重大です。初

期研修医のリクルートと教育、長陵協議会との関係強化と連携、卒前教育との連続性など、いずれも長い歴史を背負った諸課題をどうやって改革・解決していくのか。幸い今まで一緒に取り組んできた仲間が回りにたくさんおりますので、皆さんとそれぞれの課題に真摯に取り組んでいこうと考えます。さらに薬学部学生の病院実習も始まります。薬学部・薬学研究科から優秀な学生・人材を受け入れ教育していくことは病院の医療のレベルの底上げに必須です。病院を挙げた薬剤師養成の研修教育システム作りを考えたいと思います。

3) 大学病院と医療安全

医療安全の問題は医療を取り巻く種々の問題の中でも非常に重要な課題です。私の専門であります産婦人科では診療中、常に医療安全が念頭に置かれます。そもそも現在の医師や歯科医師の臨床研修義務化の流れは医療安全の問題から端を発しているという捉え方もあります。東北大学病院では医療安全推進室が中心となり活発かつ先進的な取り組みを地道に続けております。「課題の的確な抽出と迅速な対応」を継続し、さらに発展させていくことが私の責務と考えます。

おわりに

不惑で教授を拝命し、知命の今年は副病院長を拝命し、天命を下された里見病院長を精いっぱいお手伝いしようと覚悟を決めているところです。どうぞよろしくお願ひします。

